

平成二十四年度の新社理事
改選される

4月の総会で平成二十四年度の新しい
理事が承認されました。
新しい理事によりAAFCの活動方針の
作成、運営がなされます。

立候補を募りましたがどなたも応募さ
れなかったため、旧理事を中心に相談し
ながら新社理事を選出いたしました。

これからの2年間、AAFCが更に発
展と活発な活動がなされるように、新社
理事一同誠心誠意努力して参る所存です。
会員の意見、要望などを出来るだけ取り
入れ、オーディオ、音楽を通じて会員相
互の親睦、交流を図りたいと思います。

会員の皆様の熱いご支援、ご協力を頂き
AAFCの更なる発展を期して参りたい
と考えております。

役割、氏名は左記の通りです。
二年間よろしく願い申しあげます。

二〇二二年度 AAFC新社理事の
ご紹介

- 会長 佐藤 久男
- 副会長 脇田 隆夫
- 顧問 高橋 敏郎：新任
- 幹事長 山本 一成
- 理事(ウエブ マスター) 堀端 俊雄
- 理事(行事) 後藤 榮一
- 理事(編集) 倉田 勲
- 理事(会計) 大久保 貴枝子
- 理事(技術) 鳥居 康信
- 理事(総務) 福林 羊一：新任

会長

恒例のクラブ主催のコンサート
『フラメンコとオーディオの集い』
が開催される

昨年は東日本大震災が発生、日本国内が
自粛ムードとなり、毎年恒例であった我が
クラブ主催のコンサートは会場確保の問題
もあり中止を余儀なくされた。

今年になって会員の開催への意欲が盛り上
がり、開催の方向で会員の意思統一が計ら
れた。いつも悩まされるのが会場確保だ
が、何とか5月19日(土)に開催のめど
が立った。

早速実行委員会を結成、後藤総合プロ
デューサー、鳥居実行リーダーが主体とな
り実施に向け準備がスタートした。

毎年のようなプログラムにするか頭を悩
ますのだが、今年是我々の活動プラス「フ
ラメンコ演奏」を取り上げることに早々と
決定した。我孫子市民もフラメンコ演奏を
間近で鑑賞することが少ないだろうとの判
断もあった。タイトルも「フラメンコと
オーディオの集い」とし、上野会員デザイ
ンで素晴らしいインパクトのあるポスター
も仕上がった。

しかし、その後も「周到な準備が成功の
道」とばかり会員皆が気を引き締めて取り
組みを継続。

そもそも我がクラブが何故毎年コンサ
ート(11回目)を開催し続けてきたの
か。その想いと言えは：

- 1) 我がクラブの活動を市民に知っても
らい、会員増加につなげたい。
 - 2) 生演奏の迫力、素晴らしさを市民に
伝えたい。
 - 3) オーディオの楽しさを伝えたい。
 - 4) 会員の結束力を確かめる。
- などの事柄を念頭に置いての事と言っ
てよい。

さて、当日(5月19日)を迎え、我々の
活動を後押ししてくれるかのように天
気も快晴であった。嬉しい事にお客様の出
足も良く上々のスタートが切れる事となっ
た。

第一部は2部構成で前半は「蓄音機から
デジタルオーディオへ」と題し、蓄音機時代
では小笠原会員力作の自作蓄音機で小笠原会
員と後藤会員のSPレコードを披露、LP、
CD時代では石井会員の定評ある改良アン
Pの紹介、最先端デジタルオーディオ時代では
石田会員がルビジウムクロックを使用した
デジタル再生装置だけでなく、スピーカーを
含めて、全て自作のシステムを披露した。
いずれもお客様の関心を誘ったのではない
かと感じている。

左の写真はコンサート会場の様子



後半は模擬例会と称して例会の雰囲気を高橋
会員、大久保会員の発表で来場者に披露し
た。

会場には我々の活動の経緯をパネルに掲示
し、更に現物の展示コーナーを設け、高橋会
員の著書類のほか林、小川、鳥居、上條、鳥
居各会員の手作りのアンブ、ターンテーブル
ボード、カーボンアクセサリー等を展示し、
お客様の興味を引いた事と思う。

第二部はお待ちかねプロの演奏者を交えた
フラメンココンサート。

ギター演奏、女性のカンテ、7名の踊り手に
よる迫力ある演奏にすっかり来場者も引き込
まれ会場が一気に盛り上がった。後日会場に
ただいた女性からわざわざ感激の電話が会長
のもとへあったという事実がそれを物語って
いると思う。

今回は、盛りだくさんのプログラムと
時間配分もタイトで心配されたが、演奏
者も、来場者も満足して頂けたのは、会
員同士の素晴らしきチームワークで成し
遂げられたのだと思う。手作りのコン
サートではあったが、会場設営、録音、
ミキシング、照明、受付のお客様の誘
導、時間運営等々どれも滞りなくスム
ースに終了出来たのは驚くばかりであっ
た。

写真はフラメンコ実演の様子より

